

TASC

Tokai university
Alumni Society of
Communication engineering
department

東海大学通信工学同窓会

(通信工学科・コミュニケーション工学科・情報通信電子工学科)

2015年12月1日号

発行者 東海大学通信工学同窓会
会 長 中西孝夫
URL <http://tasc.gr.jp>
住 所 〒232-0076 神奈川県横浜市内南区
永田台43-9
事務局長 土岐晴美 方

東海大学通信工学同窓会の皆様にはご健勝のこととお慶びを申し上げます。また、母校への多大なるご理解とご支援に厚く御礼を申し上げます。

東海大学は今日まで、創立者・松前重義博士が掲げた「文理融合の教育」を理想に、幅広い専門分野を擁する総合大学として発展を遂げてまいりました。これもひとえに、建学の理想を共有する、多くの同士の皆様のご尽力によるものであります。とりわけ、37万人を数える卒業生のご活躍は、我々に大きな自信と活力を与えてくださっているのです。

中でも、通信工学同窓会の皆様は、松前博士が発明した「無装荷ケーブル通信方式」を例に挙げるまでもなく、創立者と同じ専門分野を学び、研究や教育に



学園のあるべき姿を目指す

学校法人東海大学
理事長 松前義昭

対する理想を間近に触れ、母校への理解を深めて帰属意識を高めていただいた方々です。その同志的結合をエネルギーとして、卒業後も母校を愛してくださるその姿に感謝の意と敬意を表します。

さて、東海大学では今、建学100周年に向けた「学園のあるべき姿」を目指して、それを実現するための具体的な施策を中・長期的視野で推進しているところです。2017年に迎える建学75周年はそのステップボードであり、皆様にご協力をいただいている記念事業も教育環境の整備を中心順調に推移しております。

本年6月には湘南校舎で(仮称)19号館の地鎮祭を行いました。2016年度から主に、皆様が学ばれた工学部と情報理工学部の施設として活用する予定です。同じ

く記念事業の一環として建設し、すでに理学部が使用している18号館に隣接しており、これらの事業の完成で、本学の理工系教育の環境が飛躍的に充実することになります。

もちろん、こうした教育環境の拡充のみならず、我々は学園の教育方針を再確認し、時代と将来を見据えた教育目標も構築していかなくてはなりません。そして100周年を迎える時には、社会の変遷に左右されることなく、まっすぐに前を向いて邁進できる学園へと変貌してまいります。建学75周年記念事業募金とあわせて、重ねてのご支援・協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、通信工学同窓会の皆様のますますのご発展と、ご健勝をお祈りして、私のご挨拶いたします。

通信工学同窓会会員の皆様には日頃よりご支援、ご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

当会の活動の基軸を「親睦と研鑽」に置き事業を企画・遂行しています。活動に関してどんなことでも遠慮なくご意見、ご指導賜ります様お願い申し上げます。

この報告は会報の発行のタイミングに合わせて昨年度下期、本年度上期に於ける活動を報告いたします。なお当会ホームページではタイムリーに活動を掲載するように心がけていますのでぜひ適時ご閲覧をお願い申し上げます。

先ず、昨年度はホームカミングデーに参画し当会会員の今間俊博氏(79卒)首都大学東京教授に専門のアニメ制作の新技術について講演をいただき参加の皆様興味を惹きつけました。また会員塩満守氏(78卒)の御嬢さんでアルパ奏者の塩満友紀さんに特別にアルバの演奏を披露していただき参加



この一年を振り返って

会長 中西孝夫(66卒)

の皆様にとつて思わぬプレゼントとなり楽しんでいただきました。7月5日11月末には母校創立70周年に合わせて5年毎の名簿改版を行います。発行いたしました。名簿は活動の原点と考え今後も定期的改版が必要と考えています。12月には年に一度の会報を発行しました。2月13日にはタイ支部総会をモンクット王工科大学で開催いたしました。1968年にタイからの留学生4人が通信工学科を卒業し教鞭をスタート、現在2万5千人の学生を有する国立大学のパイオニヤーとして活躍した歴史に触れました。3月の学位授与式では第四期の通信ネットワーク工学科の優秀な学生に通信工学同窓会賞を授与し称えました。本年度に入り5月30日には3年に一度の総会を高輪キャンパスで開催、講演会はチャレンジャーズセンター所長木村英樹先生にお願いしチャレンジャーズセンターの目的とその活動の一つ

である東海大ソーラーカーについて語っていただきました。7月5日には北海道支部総会を浅利英吉先生ご出席の下に札幌で開催し会員相互の交流を深めました。当会を活性化するというクラス会と考えます。名簿の作成タックルシート作成、案内はがき印刷など本部が支援いたしますのでクラス会の開催をお薦めします。早いもので来年度は通信工学同窓会として再出発して10年目を迎えますので多くの皆様に参加いただける記念行事、研修旅行などを企画いたしております。最後に重要な運営状況について、予算の主収入は皆様からの会費ですが、納入者数が有効住所者数(約8千人強)の割に満たなく厳しい状況です。何卒当会活動にご理解を賜り未納入の方々にご協力を切にお願い申し上げます。最後に皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

2014年度 収支決算報告ならびに監査報告

以下のとおり2014年度通信工学同窓会の収支報告をいたします。
2015年4月1日

会 長 中西孝夫
会計理事 澤田 茂

〈収入の部〉

自：2014.4.1～至：2015.3.31

科 目	予算(a)	決算(b)	執行率(b)/(a)	記 事
1. TASC会費	1,250,000	997,000	80%	270名
2. 雑収入	490,000	513,740	105%	
(1) 行事参加費	0	0		
(2) 会報広告掲載料	300,000	180,000	60%	東海教育産業 9万円 国際通信企画 3万円 医療法人松和会 3万円 霞ヶ関東海倶楽部 3万円
(3) 同窓会支援金	90,000	123,018	137%	
(4) 寄付金	100,000	196,624	197%	37名+1件
(5) ご祝儀	0	0		
(6) 受取利息	0	298		
(7) 雑費	0	13,800		・名簿販売代金3冊
当期収入合計	1,740,000	1,510,740	87%	◎前年度繰越金(2014/3/31現在)
3. 前年度繰越金	4,571,879	4,571,879	100%	・横浜銀行／普通預金口座 2,057,540円 ・ゆうちょ銀行／振替口座 2,513,368円
4. 過払金清算未処理金	0	0		・小口現金 971円
収入の部合計	6,311,879	6,082,619	96%	

〈支出の部〉

自：2014.4.1～至：2015.3.31

科 目	予算(a)	決算(b)	執行率(b)/(a)	記 事
1. 運営費	455,000	317,162	70%	
(1) 通信費	20,000	23,596	118%	
(2) 会議費	100,000	50,708	51%	
① 理事会	10,000	0	0%	
② 総会・代議員会	80,000	50,708	63%	
* 会議費	30,000	0	0%	
* 代議員会費用	50,000	50,708	101%	
③ 監査委員会	10,000	0	0%	
(3) 交通費	60,000	66,930	112%	
(4) 旅費	20,000	0	0%	
(5) 事務消耗品費	15,000	12,903	86%	
(6) 情報処理システム費	60,000	60,360	101%	
(7) 継承学部統合推進費	30,000	0	0%	
(8) 慶弔費	50,000	42,000	84%	・卒業生表彰記念品 42,000円
(9) 振替払手数料	50,000	35,100	70%	・支払振込料 4,968円 ・会費払込料等 30,132円
(10) 雑費	20,000	1,100	6%	
(11) 予備費	30,000	24,465	82%	
2. 支部運営費	80,000	30,000	38%	
(1) タイ支部	25,000	30,000	120%	
(2) 北海道支部	55,000	0	0%	
3. 事業・行事費	2,440,000	2,254,713	92%	
(1) 会報発行・会費徴収	1,100,000	1,064,288	97%	
(2) 春の講演会	60,000	30,000	50%	
(3) HCD	160,000	110,425	69%	
① 広告掲載費	50,000	50,000	100%	
② チラシ印刷代	55,000	32,400	59%	
③ 通信費	10,000	0	0%	
④ 講師料	30,000	0	0%	
⑤ 雑費	15,000	28,025	187%	
(4) 松前博士偉業見学会	20,000	0	0%	
(5) 名簿発行	1,100,000	1,050,000	95%	
当期支出合計	2,975,000	2,601,875	87%	◎次年度繰越金(2015/3/31現在)
4. 次年度繰越金	3,336,879	3,480,744	104%	・横浜銀行／普通預金口座 1,389,671円 ・ゆうちょ銀行／振替口座 2,076,860円
5. 振込手数料未払金	0	0		・小口現金 14,213円
支出の部合計	6,311,879	6,082,619	96%	

監査報告

2014年度のTASCの収入及び支出は、関連の帳簿並びに証票の管理を含め、その執行は適切であり、貸借対照表並びに収支決算報告書はその状況を適正に表していると認められる。
平成27年4月25日

東海大学通信工学同窓会

監 事 渡 邊 勝 美

三ヶ田 博 亮



2015年度東海大学通信工学同窓会活動方針

1. 全体活動

- 大学同窓会へ学科同窓会として参画
* 校友会活動、同窓会代議員会、ホームカミングデー学部デモ支援など
- 理事会開催 (定例会：四半期毎)
- 代議員会開催 (定例会：毎年)
- 当会としてホームカミングデー参画、同窓会サロンの開設、講演会開催、学部デモ支援、ホームカミングデー案内誌に広告掲載
- 大学の協力を得て会員資質向上のための講演など企画実施
- 松前重義博士偉業見学会などの研鑽目的企画の開催
- 会報発行 (12月全会員宛発送、活動報告、学園情報、恩師、会員寄稿など掲載、及び会費納入をお願いする)
- 通信ネットワーク工学科卒業生表彰(通信工学科の継承学科として)
- 会員名簿管理 (タイムリーな更新作業含む)
- HP、メール・システム活用と円滑な運用
- 会員交流支援推進 (クラス会、親睦会など)
- 個人情報保護の徹底
- 大学の学部等の改組に伴う学科同窓会 (情報通信学部同窓会) との協調推進

2. 支部活動

- 支部活動を支援し活性化を図る
北海道支部会開催

監 事	総務理事	企画理事	広報理事	会計理事	事務局長	副会長	会 長	参 観 与 問	名 誉 副 会 長	名 誉 会 長
室 渡 勝 美	村 田 信 一	竹 野 和 則	増 田 茂 洋	澤 田 晴 美	柳 沢 真 一	小 林 孝 夫	中 西 孝 夫	山 根 治 仁	福 田 哲 夫	松 前 守 之 登
(69卒)	(66卒)	(86卒)	(85卒)	(88卒)	(72卒)	(88卒)	(78卒)	(62卒)	(62卒)	(61卒)
新任										

10周年記念研修旅行案内

2016年11月9日(水)ー10日(木) 予定
松前重義博士生誕地、松前重義記念館、宇宙情報センター、熊本キャンパス、阿蘇キャンパスを巡る一泊二日の旅です。
詳細はホームページで案内します。ぜひ皆様のご参加をお待ちします。
<http://tasc.gr.jp> お問い合わせは 047-353-6414 (中西)

通信ネットワーク工学科 研究室紹介

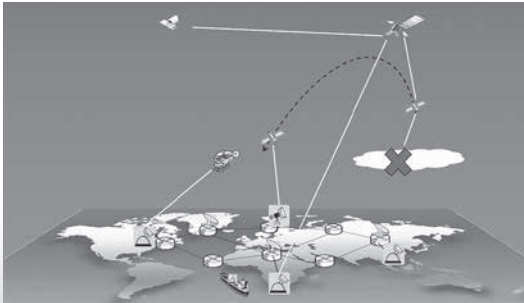


光の空間伝搬を利用する通信は、電波による通信と比べて、大容量のデータ伝送を小型の装置で提供できる可能性があります。また、光は現在、周波数調整の対象に含まれていないことも魅力の一つとして、衛星や航空機などを相手とする通信への適用が期待されています。

これまでも光の空間伝搬による通信は、国内外で盛んに検討されています。多くの研究成果が報告される中で、日本は1994年に衛星と地上との間で光通信実験を行い、世界初となる成功を収めました。また、2005年には、欧州との共同実験により、衛星間で行う双方向の光通信に初めての成果を得ています。その後、日米欧はそれぞれ、人工衛星を相手とした光通信実験に成功しました。現在は、宇宙機関の会合の中で光通信に関する検討グループが立ち上がり、将来の技術標準化に向けた

議論が始まっています。

レーザー光の鋭い指向性を利用する通信では、移動する相手との通信回線を維持するために、信号光の射出方向に高精度な制御を必要とします。同時に、信号光を受ける側も、安定して信号を検出するため、送信側を高精度に追尾する必要があります。また特に、衛星一地上局間光通信のように通信経路の途中



光通信システム図

通信ネットワーク工学科 教授 高山佳久

に大気が存在する場合には、光が大気から被る影響の低減や雲による光の遮断の回避も必要となります。

当研究室は、空間を伝搬するレーザー光を利用した通信技術に関する研究に従事し、現在は特に、以下の三項目に着目して活動しています。一つ目は、衛星やヘリ、小型の無人機など、光通信を行う対象や環境に応じて、光通信システムを構成する機能の配分と、配分した機能の実現方法について検討しています。二つ目は、光通信システムを構成する各機能への要求に大気の影響を反映するため、光が大気から被る影響の測定と解析を行っています。三つ目は、光通信システムを構成する機能の動作特性や、光通信の実施結果を予測するため、大気の影響を取り入れた光波伝搬のシミュレーションツールを作成しています。これらの活動を通じて、左図に示すような光通信システムの発展に寄与することを目指しています。

恩師より



近

況報告

元通信ネットワーク工学科教授

本間 光一 (72卒)



企業生活31年間と大学教員生活10年間の務めを終えて、本年3月に退職し時間が自由に使える年金生活を過ごしています。企業での当初は警察のデジタル無線の技術開発からスタートし、その後は携帯電話の開発に携わりました。大学に於いても学生の育成と共に次世代無線通信に関する研究を進めました。一貫してデジタル無線通信に関する技術開発に関わることができ、幸せな現役生活を送れたことに感謝しています。警察無線の開発を終えた30歳代初めに於いての目標は、退職までに公共無線（自動車携帯電話等）のデジタル化を完成することでした。当初電波の有効利用・音質・省電力・小型化等々難題が山積みでした。ところが事業化も含め目標が明確になるに従って多くの技術者がデジタル携帯電話の技術開発に参加してきて瞬く間にデジタル携帯電話の実現が図られました。今更ながら当時の目標を持った時の人間の強さに痛感し、現在日本として共通の明確な目標が作れたらと思っています。ところで、昨今はゴルフに加え、昔のことが懐かしく自転車ツーリング、磯釣り、家庭菜園、めだかの飼育、孫の世話等々を始めて瞬く間に時間が過ぎ去っています。自転車は自宅の横浜市緑区から田舎の菩提寺の本山である鶴見の總持寺まで鶴見川土手を毎週約30kmツーリングしていますが自然の豊かさと自分の体力の低下を感じています。またこれだけの生活では申し訳なく感じ私でも役立つボランティアを探す活動始めたところです。

国際会議APSITT 2015での研究発表報告

(Asia Pacific Symposium on Information and Communication Technology)

通信ネットワーク工学科 4年 鈴木琢也

この度、国際会議「APSITT2015」に、指導教員の村山純一先生と大学院生のピッチャヤ・キェカルンさんと共に参加する機会を得ましたので、ここに報告させて戴きます。本会議は、アジア太平洋地域と日本の技術的な親交を結ぶ目的で[1]、ほぼ各年で開催されており、第10回目の今回は2015年8月にスリランカのコロンボで開催されました[2]。

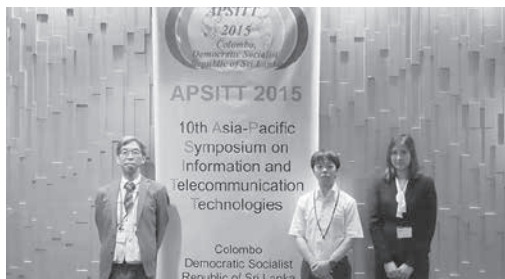
この国際会議で私は、企業通信システムがウイルスに感染した際に、機密情報の漏えいを如何にしてくい止めるかといった内容の研究発表を英語で行いました。慣れない英語での発表は、緊張とプレッシャーの中、発言やスピードに気をつけながら、正確なスピーチになるよう心がけました。また、発表後には、英語での討論時間があり、思うように考えが言葉にできなかったり、質問の意図を一度で把握できなかったりと、戸惑う場面もありました。しかし、英語であっても、自分の研究発表について直接質問を戴くことで、研究内容を充実させるための様々なヒントを得ることができ、大変貴重な機会となりました。

発表前日の夜には、バンケットにも参加し、多くの参加者の方々から、様々なお話を伺うことができました。また、スリランカの辛い料理を味わったり、民族舞踊を鑑賞する機会もあり、文化の一面についても知ることができました。これも思い出に残る体験でした。

発表翌日には、テクニカルビジットに参加し、ペラデニヤ大学の工学部を訪問しました。ここでは、現地の学生達が国際会議の参加者向けに、実験のデモンストレーションやポスターセッションなどを行ってくれました。スリランカはシンハラ語とタミル語が公用語ですが、学生達は英語を流暢に話しているのが印象的でした。おかげで、現地の学生達とは活発に意見交換を行うことができ、将来的にスリランカの技術力はめざましく向上するであろうことが予見できました。大学からの帰路には、紅茶工場を見学する機会もあり、スリランカがイギリスの影響を強く受けている国であることも印象づけられました。

会議の合間には、街の雰囲気を楽しむ機会もありました。日本ほど裕福には見えませんでしたが、多くの人々が活気に満ちて生活している様子など、現地で五感から得られる情報や文化など全てが目新しく、非常に濃密な体験となりました。このような体験や、国際会議で発表をやり遂げたという達成感により、一回り成長して帰国した自分を感じることができた気がします。後輩達には、この学会発表のすばらしさを積極的に語って、後に続くよう尽力したいと思います。最後に、海外出張も含めて今回の国際会議での研究発表を手厚くサポートして戴いた村山先生を初めとする関係各位の方々には心から御礼を申し上げます。

参考[1] https://www.jstage.jst.go.jp/article/bplus/2010/15/2010_15_15_41/_pdf
[2] <http://www.ieice.org/cs/in/APSITT/2015/>



左から 村山先生 本人 ピッチャヤさん

2014年度通信工学同窓会賞の受賞者紹介

優秀賞

安藤 巧 君
池田 晃基 君

小林 和貴 君

努力賞

芳根 明生 君
小松 将之 君伊藤 真紀 君
渡辺 佑典 君津布久雄太 君
森田 賢太 君高橋 周兵 君
眞中 絢美 君

舞台は世界。

情報通信関連業務を国内、海外で実施

— 無線・伝送・移動体・衛星・LAN・光・IP等 —



国際通信企画株式会社

URL <http://www.igrp.co.jp/icp/>

【新卒募集】

通信設備工事技術者／SE・SI・NE 各10名

会社見学、随時受付しております。人事課迄お気軽にお問い合わせ下さい。

人事課 e-mail jijin@igrp.co.jp / TEL 045-470-1331(代)

東海教育産業株式会社

代表取締役 柳沢 真一



本社 神奈川県伊勢原市下船屋164
Tel. 0463-92-1881 (代)
伊勢原旅行センター 神奈川県伊勢原市下船屋143 東海大学医学部付属病院内
Tel. 0463-93-3980 (代)
湘南旅行センター 神奈川県横浜市南矢名3-10-35 東海大学同窓会館内
Tel. 0463-77-3522 (代)
熊本旅行センター 熊本県熊本市東区渡路9-1-1 東海大学けやき会館内
Tel. 096-250-2686 (代)

営業企画室 神奈川県伊勢原市下船屋164
Tel. 0463-93-1870 (代)★ - A - - ★ <http://www.tokai-eic.co.jp/>

皇居や東京タワー、国会議事堂、レインボーブリッジなどが展望できるフロア。

レストラン フランス料理・鉄板焼

宴会・会議場

東海大学校友会館
The Tokai University Club
株式会社 霞ヶ関東海倶楽部 www.tokai35.jp
〒100-6035 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル35階
TEL 03-3581-0121(代表) FAX 03-3581-6200

透析医療を中心に豊富な経験と実績で患者さまの声にお答えします。

医療法人社団 松和会

Medical Corporation SHOWAKAI

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3丁目12番12号

TEL 03-5304-5660 FAX 03-5304-5665

URL <http://www.showakai.or.jp>e-mail: webmaster@showakai.or.jp

タイ支部便り

タイ支部事務局長 Dr Pitak Thumwarin KMITL准教授兼副学長



モンクット王工科大学ラカバン（KMITL） 「ミュージック・エンジニアリング&マルチメディア学科」の紹介

私は日立製作所の奨学生基金の支援の下に2004年東海大学から博士号を取得しました。指導していただいたのは通信工学科の松浦武信先生（現ランシット大学教授）です。卒業後はモンクット王工科大学ラカバン（KMITL）の工学部の准教授として働いてきました。主な研究分野は、パターン認識、目視検査、信号処理、音楽情報科学です。また現在はKMITLの副学長としての役務も背負っています。2012年、新しく開設する「ミュージック・エンジニアリング&マルチメディア学科」のカリキュラム作成のプロジェクトリーダーにアサインされ、2014年にタイで最初で最新のこの学科分野に於ける工学学士を授ける学部を立ち上げました。

ここ10年間タイのエンターテインメント業界は疑いなく急速な成長を享受してきました。それはインターネットとソーシャルメディア社会を通じてタイ社会で重要な役割演じています。その結果IT業界の成長はデジタルメディアコンテンツの量と比例して活気づいています。2015年にはASEAN経済共同体（AEC）に於ける消費者市場は6億人を超える規模になります。地域別のエンターテインメント業界の競争は市場確保、拡大のため益々激しくなると予想されます。ASEANのメジャーであるタイはこの地域に於けるエンターテインメント業界とその改革の核になるとみなされています。タイは競合に対して多くの有利性を持っています、つまり、地理的中心にある事、文化の多様性、専門知識、信頼性、多様なエンターテインメント市場に対応する製品化能力、幅広い製品群（音楽、広告、映画、ゲーム、アニメーション）これらは国際市場参入の準備が整っています。

Thailand Creative & Design Center(TDC)によるとタイのエンターテインメント業界の規模はおよそ年間350億バーツ(約1190億円)と見積っています。そのうち200億バーツは音楽関連業界、65億バーツは音楽とエンターテインメント分野の放送局、50億バーツがオーディオ、音楽装置、20億バーツは照明、音響、3億バーツが音楽学校です。

年間成長率は10%強で年々増えると予想されます。最も注目されるのはゲーム・アニメ業界で2008年170億バーツであったのが2010年220億バーツとなっています。

この顕著なデータはこの業界がタイの経済創造成長エンジンであることを明らかに示しています。

タイがASEANに於けるエンターテイメント業界と改革のハブになるための仕込みとしては将来成長を支える資格を持った学生をこの業界に送り出すための体制を整えることです。現時点では、まだ実践現場及び後方支援共人材は欠けています。この状況に対応するためKMITL工学部では「ミュージック・エンジニアリング&マルチメディア工学士」のカリキュラムの開発が必要と判断しました。目的は音楽とマルチメディア技術に於いて 分析、合成、設計、技術規格への適合、開発能力を持った技術者を育成することです。これ等のほとんどは21世紀の教育目的に適する内容でカリキュラムは出来上がっています。我々は「Teach Less Learn More」理論を強く進めています。これから先、芸術家の要望である音楽、照明、色、音響、グラフィック アニメーションの一体化のために電気、電子、通信、ITの知識の応用を複数面のアプローチで大幅な歩調で進めていきます。

重要な理論学習に加えて、実践は学園内及び業界に於いてまた国内、国外に於いても強く進めます。これらは卒業前に企業の教育プログラムも含めて実施します。

このカリキュラムはタイでは最初のものです。KMITL工学部の「ミュージック・エンジニアリング&マルチメディア学科」はタイがASEANに於けるエンターテインメント業界と改革のハブになるためのメインドライバーとして間違いなくその役目を担います。その上更にタイの高等教育における競合力を高めていきます。

（中西孝夫訳 原文はホームページタイ支部から参照ください）

支部だより

北海道支部便り

北海道支部長 西村 俊明（79卒）

北海道支部総会報告

2015年7月5日（日）午後5時より、札幌パークホテルにおいて、中西孝夫会長、・小林一雄副会長・土岐晴美事務局長出席のもと、初めての「東海大学通信工学同窓会 北海道支部総会・懇親会」が、7名の同窓生にご参加をいただき開催されました。

西村俊明北海道支部長の挨拶のほか、中西会長からの通信工学同窓会の近況報告を含めたご挨拶がありました。また、来賓として、札幌教養部で長い間、工学部通信工学科の教鞭をとられた恩師の浅利英吉先生にもお越しいただきご挨拶をいただきました。懇親会では、湘南校舎の現況について、小林副会長から写真を使って説明され、また、札幌校舎については、西村北海道支部長から配布資料を使って説明しました。参加者たちは、懐かしい写真、現在の写真などを見ながら、アットホームな雰囲気 で懇親を深めました。さらに、今後の活動に関する意見交換を行い、全体記念撮影を行い、盛況のうちにお開きとなりました。



支部総会参加者の皆さん

大事な栄養素「タンパク質」

土岐 晴美（88卒）

タンパク質（20種類のアミノ酸の集合体）は人間の身体を作る大事な材料なのです。何故なら身体は水分（60%）を除いた残りの半分（20%）がタンパク質で出来ているからです。脳、皮膚、髪、爪、骨、血管、筋肉、臓器の全てにタンパク質が必要です。又、酵素、ホルモン、免疫抗体などの材料にもなっています。タンパク質が不足するとどうなるでしょう。身体は自分の筋肉を使って、身体に必要なタンパク質不足をおぎないます。筋肉からタンパク質が少なくなると内臓や筋力まで脆弱になり疲れやすくなります。また、ホルモンや神経のバランスが崩れイライラ怒りっぽくなったり、脳の機能が低下して思考力や集中力が衰えやる気なくなります。（鬱症状を発症する事も）そして、免疫力が低下し病気になりやすい身体になってしまうのです。タンパク質は体重1kgに対して1gが必要です。60kgの人は60g必要になります。これは20代から70代まで必要とする量は同じです。食事から必要な量を摂るには、毎日お肉、お魚、卵、乳製品、大豆製品を300gから400g食べる事になります。又同じ量の野菜、穀物も必要です。若い時は普通に食べていた量ですが、年とともに食が細くなり食べられなくなってしまいます。そこでお勧めなのがプロテインを活用する事です。プロテインと聞くと筋肉もりもりのイメージがあると思いますが、もりもりの筋肉はトレーニングをする事で出来あがるものでプロテインを飲むだけではなりません。プロテインの選択基準として「アミノ酸スコア」があります。身体の中で合成出来ず食品から摂る必要がある必須アミノ酸のバランスを表したもので「アミノ酸スコア100」の物が良質のタンパク質となります。タンパク質には動物性（ホエータンパク）と植物性がありますが、脂質やカロリーを気にする事なく良質なタンパク質が摂れる大豆プロテインでアミノ酸スコア100の物がお勧めです。大豆タンパク質には余分な脂質を体外に排出する働きがあり、血中の悪玉（LDL）コレステロールを低下させる効果があるとされています。さらに最近の研究で、内臓脂肪や中性脂肪の低減効果にも期待が高まっています。大豆プロテインを飲んでタンパク質不足を解消し、健康な身体でいつまでも若々しくありたいですね。※タンパク質を吸収するにはビタミン、ミネラルが必要です。

バロックの楽器「チェンバロ」を造ってみた。

櫛田 眞（74卒）

1970年から大学生活を始めることとなった。この年は大学紛争真っ盛り。5月の連休に入ったかと思ったら次のキャンパスがオープンしたのは10月であった。私のような不真面目な学生にとっては何ともし難い。そんな中10月にキャンパスがオープンすると音楽好きの仲間では何かアンサンブルでもやりたいな…などと漠然とした思いをもつようになった。結果“バロックアンサンブル”となったのである。新入生を迎えアンサンブルもスタートし夏の合宿の時である。音楽の指導をして頂いている矢沢宣先生（リコーダー奏者）から“バロックアンサンブルにはチェンバロが必要だ。君たち学生なんだから買えとは言わんが自分で造ってみないか。”こんな甘い言葉に誘われて楽器作りを始めてしまったのである。先生からは趣味でチェンバロを造っている方を紹介され現物を見せてもらい弦の長さ太さ、弾くポイントなどの資料をもらい意気揚々と自宅に戻ったのである。その当時は今の様にネットで検索すれば何でも解る時代ではなくその後は図書館で楽器についての調査が始まった。調べていくうちに チェンバロ→ハンマクラビコード→ピアノ→モダンチェンバロへと変遷したことが判った。つまり元々のチェンバロは歴史チェンバロと言って音を響かせる構造が全く違うことが判った。モダンチェンバロはピアノと同じく響板で音を響かせる。一方歴史チェンバロはギターのように箱を響かせる。材木はある程度薄く響きを増幅できるように造られている。…そんなことを調べていると時間がたつのがアツという間に過ぎてしまうのです。調査も終わりあとは製作に取り掛かったのです。開始から約1年、試行錯誤を重ねやっと完成にたどり着きました。頭の中ではこんな音か、あんな音かと想像を張り巡らしながら弦を張って音を出してみた。出てきた音が何とも変な“ブコン”といった何ともあの“シャラン”とした品のある音とは程遠いものでした。原因は簡単なことであった。楽器の音合わせはA（ラ）の音を基準に合わせるのですが、現在の国際標準は440Hzに対し17、8世紀のそれは415Hzだったのです。半音低い弦長で張力が大きくなり荒っぽい音になっていたのです。弦長を調整しやっと完成です。

私の宝物のこのチェンバロは何時になるか判らない修理をじっと待っているかわいそうな楽器です。



宝物の自作のチェンバロ

富士山と権現岳（八ヶ岳）の背比べ

黒駒のMountain View 原田 宏之（79卒）

権現岳（八ヶ岳）（2,715m）その昔、気が強くお転婆な富士山の女神・浅間様と、怒りんぼうの八ヶ岳の男神、権現様がその高さを競い合い、木曾御岳の阿弥陀如来様の発案で、両山の頂に樋を渡したところ、富士山側に水は流れた。くやしかった浅間様が八ヶ岳の頭を小突いたところ、頂が八つに割れてしまった、と言う民話が山梨にあるのだが、私はこれが大好きなのである。何と言っても二つの山の頂に樋を渡すと言う発想が雄大で、さすが阿弥陀如来様と感心するばかり。しかし、その判定結果のおかげで富士山より高かった八ヶ岳は何と1,000m近くも高度を下げってしまったのだから、お気の毒な話だ。気の強い女神様とは喧嘩しない方が良い。

両神が喧嘩をする度に山は噴火し、人々は迷惑を被ったそうだが、八ヶ岳は有史以来、噴火した記録が無いので、もちろん民話だけの話だ。阿蘇山や箱根山の様に大きな山が陥没したのとは異なり、八ヶ岳は異なる時代に噴火した火山が直列的に連なっているだけなのにどうして八ヶ岳が富士山より高かったという発想になるのか興味深い。これこそ神のみぞ知る話だろうか。その小突かれて割れてしまった頭に興味を持った私は友人と観音平から青年小屋を経て権現岳に登頂し、帰りは三ツ頭を経由して観音平に戻るルートをとった。当日の朝の予報は快晴であったにもかかわらず晴れ男の私を裏切るように、頂上まで霧の中で何も見えなかった。これだから山は分らない。狭い頂上もただ霧の中で、反対側は何も見えない。周りが見えないと鎖場や梯子も怖くなるので意外に登り易いのだが、やはり景色は見た方がいい。失望の中で下山を開始し、三ツ頭の手前の小さな頂きで休憩していると急に空が晴れて、ギボシと権現岳が姿を現した。百聞は一見にしかず。富士の女神・浅間様の振り下ろした杖は、まるで真夏のスイカ割りの様に権現岳の頂を切り裂き、その東側は完全に切れ落ちていた。登ったルートに戻っていたらこの神の荒業は見る事が出来なかったに違いない。反対側の空の向こうには富士山が美しい裾を引いており、浅間様の高笑いが聞こえるようであった。山梨には聖徳太子がまたがって空を飛んだと言う黒駒（金のひづめを持つ四白の馬）の民話もあるのだが、これは又の機会にお話しようと思う。



東海大菅生高校 訪問記

小林喜三郎（66卒）

7月11日（土）、望星学塾設立80年記念・前期特別講座、【西多摩霊園「望星塚」と東海大菅生高校訪問】に参加した。本講座への参加動機は、松尾先生著「無装荷ケーブル」の内容から、創立者 松前重義博士の偉大さに改めて感動したことによる「望星塚」への表敬訪問でした。一方の菅生高校訪問では、野球と吹奏楽で有名な付属高校程の認識でしたが、本講座の意図した理由に繋がる感動がありましたので、その概要を関係者への謝意と共に、今回参加出来なかった諸兄に報告させていただきます。

母校東海大学は、教育による理想社会の実現を目指して松前重義博士により創設された望星学塾を母体とし、あの「四カ条の言葉」を建学の精神として引継いでいる。

東海大菅生高校は、この建学の精神に感銘を受けた島田久氏により1983年に創立された。前身は1970年に遡る羽村の幼稚園ということで、今では幼稚園、小・中・高の一貫校として、菅生学園を形成している。



最初の訪問先は、春の選抜甲子園でお馴染みの野球部。夏の甲子園に向けて猛練習中であつたが、時間を割いて整然と対面、橋本副塾長より激励の言葉が贈られた。

部員は総勢120名程で、唯一寮生活の設備を持つ部活組織とのことであつた。

その他の運動部では、剣道、弓道、バレーボール部等がイン

ターハイ・国体等に向けて練習に励んでいた。

特に、移動中に至る所から“コンニチハ”の声が掛かったことは印象的であつた。後で解ったことだが、道徳の入り口と考えられる「礼」の基本として「挨拶」が位置づけられているとのこと、これは、運動部のみならず校内全体の「一体感と活気」として記憶に残った。

昼食会場では、島田幸成理事長より歓迎のご挨拶と峰岸副校長からは学校紹介があり、「建学の精神」を引き継ぐ「私学の特色」等の説明内容には、訪問先で得られた校風と齟齬が無いところに説得力があつた。

また、「四カ条の言葉」を「文武両立による相乗効果」として「学力向上」と「部活動行事」を2本の柱に据え、思想を培うことにより「人間力」を高めることで将来の「進路実現（希望）」に繋げようとする紹介スライドには、「建学の精神」を高校生世代向けに具体化している工夫の意図が読み取れた。

これら二本の柱の中、「学力向上」に関しては独自の教育システムが備わっていて、外部の塾に頼らないで済ませ、その分を「思想を培う時間」に割り当てられる合理性が感じられた。

この「学力向上の教育システム」では、①カリキュラム、②授業運営、③授業環境、④朝学習、⑤サマースクール、⑥自学館、⑦勉強簿、等の構成要素にテーマを持たせ「自学力」を追求している。

特に6番目の「自学館」は、7時15分から18時30分まで開かれている。中には集中力を高める特注の椅子席があり、専任の教師が個室に常駐し好きな時に個別指導が受けられる。

また、全国の大学案内や参考書がある図書室も併設されていた。

ところで、菅生高校は東京都の山中とも言うべき「あきる野市」の大自然の中にある。

「この大自然は最高の教材である。」との宇宙観を忍ばせる説明もうなずけるが、通学時間はかなりの負担である。

それでも2時間半を掛けて江東区や横浜等からも通っている生徒のエネルギー源は、建学の精神や校風であるに違いない。アプローチは最寄り2駅（秋川・小作）間の路線バスと八王子駅間のスクールバスがある。

現在の全校生徒構成は、1学年が13クラス、2学年が11クラス、3学年が11クラスで、総勢は1,266名。

午後からは、教職員の方々のご案内で「自学館」を含む施設めぐりがあり、ここでも、教育理念の具体化とその成果等が印象的であつた。

最後は、加藤顧問指揮の下、全日本高校選抜吹奏楽大会・最優秀賞の部員110名の中、98名により、参加者27名が様々なジャンルからなる盛りだくさんの曲目演奏で歓迎を受けた。

奏者は交代で写真の様なパフォーマンスを披露するなど、部員相互の連携と信頼関係が、日本一の質の高さと共に感動的であつた。

一体、日本は、世界は何処に向かって進もうとしているのか!斯様な古今の憂いの前途に光明を見た一日となった。



第二代東海大学連合後援会会長 小高嘉郎先生の思い出

中西 孝夫（66卒）

小高嘉郎（おだかとしろう）先生と初めてお会いしたのは長男が東海大学に入学した年の千葉県後援会総会でした。真っ白な上下スーツに杖とメガネの風格に強い印象を受け、格好の良さにあこがれを感じました。後援会総会での出会いは次男が卒業するまで7年間に及びますが最も忘れられない交流は先生が団長として企画された千葉県後援会ハワイ研修旅行でした。パシフィックセンターが竣工した翌年の1991年真新しい施設に宿泊しての6日間の研修旅行です。この旅での食事時や休憩時先生と親しくお話をさせていだき、また旅行最終日の特別講演は忘れられない貴重な先生の思い出です。先ず先生のプロファイルをご紹介します。1902年千葉県館山でお生まれになり教育家の両親の影響を受け音楽家を志望されましたが実業に専念され戦前は県会議員、戦後は衆議院議員を務められ、鳩山内閣時文部政務次官として政務にご活躍されました。詩には大変造詣が深く、白鳥省吾氏、サトーハチロー氏らと深い交流を持たれ数々名作を残されています。東海大学との関係は1962年ご長男の東海大学入学を機会に松前重義博士に請われて千葉後援会会長、東京地区後援会会長、更に1967年連合後援会副会長として会長の浜地文平先生と共に学園が遭遇した、学園紛争、F M東海問題、などの解決に当たられました。1971年に第二代連合後援会会長に就任され四半世紀を超える長期にわたって東海大学後援会活動に注力されました。さてこの研修旅行の行われた年、1991年は丁度真珠湾攻撃から50年目に当たり、このことはハワイでは大きく取り上げられていました。真珠湾攻撃に関して先生は、長兄小林日種氏のお話をしてくれました。ご長兄は立派な日蓮宗の宗教家で戦前文部省から2回も世界の宗教活動の視察に派遣されており、在留邦人の多いハワイに世界平和塔の建設を企画され実現間際に真珠湾攻撃となり収容所生活の後、戦後ハワイ法華経寺を再建し生涯をハワイで終えられました。「兄の眠るハワイで真珠湾には行けない」と真珠湾見学には同行せず兄上の墓参をされました。真珠湾攻撃で消えてしまった平和塔の建設、兄の無念さ、平和を破壊する戦争の悲惨さを我々に改めて認識させてくれました。

最終日の講演会は、初代パシフィックセンター長の矢野創先生、文明研究所の村野賢哉先生、小高先生と真に充実した内容で開催され、小高先生の講話は戦後の困難な時代の国政の第一線で活躍された経験から“どうして日本が復興できたか”を小麦援助見返り資金、3つの大法案、農地法、労働法、漁業法を復興を支えた力として解り易く話してくれました。また丁度バブルの時期で有り世界に成長した日本、どのように世界情勢に生きるか、また国際人としての心得として、国情を理解すること、自分の見識を持つこと、更に他国とどのようにして品格を保って交流するかをキーワードとして話されこれ等は私の現役時代の貴重な心構えとなりました。晩年の先生は館山名誉市民として小高資料館を開館、1997年95歳で亡くなられるまで文化活動にいそしまれました。松前重義博士は小高先生の著書“あまからピン”の序文の中で「今日東海大学が世界に例を見ない後援会を擁し父兄と大学、学生が一体となって教育の理想を追求し続けてこれたのは小高さんはじめ後援会のみなさんのお力が極めて大であったことを確信をもって断言をすることが出来る」と述べられています。



ポリネシア文化センターにて

事務局 便り

来年度2016年は通信工学会を通信工学同窓会として活動を新しくスタートしてから10周年目となりますので記念行事を企画しています。

5月28日（土） 高輪キャンパス
記念講演会と懇親会（代議員も合わせて開催します）
11月3日（木・祭日） 湘南キャンパス ホームカミングデー
講演会と大学同窓会主催大懇親会

11月9日－10日 記念研修旅行「松前重義博士の故郷を巡る旅」1泊2日
生誕地、松前重義記念館、宇宙情報センター、熊本キャンパス
阿蘇キャンパス、詳細はメール、ホームページでご案内します。

東海大学付属図書館が利用できます

同窓会員は何れかのキャンパスの図書館で登録申請しますと「図書館利用カード」を発行してくれます。また資料の検索はインターネットで可能です。有効に利用して皆さんのお役に立ててください。

お願い

- ＊ 会費の納入にご協力をお願い申し上げます。
- ＊ TASC活動の情報はホームページ <http://tasc.gr.jp> をご覧ください。
- ＊ 皆様の住所、メールなどの変更は事務局 jimu@tasc.gr.jp までご連絡ください。
- ＊ 代議員、役員になって活動していただける方はぜひご連絡ください。

どんなことでも気軽にお問い合わせください。

事務局 jimu@tasc.gr.jp

訃 報

寺本 三雄 名誉教授（1925/8/4－2014/12/14）

多くの会員の皆様が教わった寺本先生が昨年12月14日ご逝去されました。先生は1960年より1995年の35年の間、電子回路、パルス回路を中心に通信工学科で教鞭をとられました、また1973年から4年間タイ、モンクット王工科大学ラカバンの技術支援プロジェクトにも参加され、その功績を認められ2000年タイ国王から功労賞を授与されています。ご冥福をお祈りします。 合掌